スーパーマンは今日も闘う

岡田　聡
茨城県

春の日差すホームから連絡橋の階段を上りきると、
眩い大海原が一望に広がっている。
ここは、企業城下町と称される茨城県日立市。「HITACHI」の創業地である。

岡田聡さんは、日立製作所のエンジニアです。ご家族は奥様と猫２匹。
仕事とは全く違うことをやってみたいと思い、手話講習会に参加し、今や20年超。
毎週土曜日の手話サークルにはデートを切り上げてでも出かける岡田さんに巻き込まれ、
趣味の写真がきっかけで結婚した奥様も、今や同じ手話通訳士として地域の手話活動の
中心的存在となっている。
岡田さんは現在、茨通研では副支部長を務め、手話通訳者の養成にも力を注ぐ。

「形状変化型ロボット」トランスフォーム中

NHKスペシャル 廃炉への道 より

３・11当日、岡田さんは新しい実験装置、
初動の日だった。しかし震災によって一変。
以降、仕事は福島原発関連オンリーになった。
原発事故発生以降、何が必要なのかを精査し、
ロボットの必要性が論議された。
ロボットのコンセプト・試作・完成に
２年の労を費やした。

昨年４月、試行錯誤ののち、
史上初めてメルトダウンと想定される
東電福島原子炉１号機の炉内へ
探索ロボットを投入する快挙を成し遂げた。
結果、燃料デブリがある上部箇所のようすが
手に取るようにわかった。

「未来のエネルギー 原子力」と、
もてはやされていた原発が今や、
人類にとっての大きな障害となった。
その中で本当の人類の未来へ向かい闘う、
日々真剣な努力を続ける岡田さんには本当に頭が下がる。

2015年、偉業を称えられ多くの賞を授与された。
今後、原子炉の中央底部の燃料デブリに、より近づくロボットを開発中である。
30年後でもまだ廃炉処理が終わらないだろうと予想される中、
原子力政策は安全最優先で考える必要がある。

日本けん玉協会公認指導員・
けん玉道３段の腕前

震災では岡田さんの家も半壊。聴覚障害者の中には避難所へ急ぐも
ただでさえ不安な中、停電で手話がわからないこともあり、
半壊した岡田さん宅に避難した方もいました。
彼らにとって、心底、心強い味方だったことでしょう。
奥様は、岡田さんのことを「Super SATOSHIくん」と呼ぶ。
まさにみんなにとってロボットに勝るスーパーマンなのだ。

写真/文　松本 博

茨通研医療班例会

茨通研役員会